

謹 賀 新 年

年頭のことば



村長 坂本 大博

親愛なる村民の皆様、明けまして御芽出度う御座います。榮ある昭和四十六年の新春を迎えるに当り、謹んで年頭の辞を申し上げます。

顧みますに昨四十五年は国内外共に多事多難の年でありましたが、我が蓬田村にしても様々の喜憂があつた訳であります。然し乍ら全村的に見ればむしろ昨年にも増して記念すべき事であつた事柄が伺えるので、行政施策上幾多の業績を数える事が出来ます。

即ち全村民能く村民憲章を体し村当局を始め各種機関・団体総力を結集振起せる処、産業・経済・教育・民生安定とキメ細やかに計画の実効を見た訳であります。先づ産業経済に就いて申しますとそのもつとも至難の課題でありました米の生産調整を農民の合意と納得によつて処理し、のみならず農業基盤の拡大、木場整備を予定の如くに進めると共に新規開田約二百町歩を見事に完工し、然かもあらゆる苦難を克服して美田万畝の出来秋も上々の豊作を収めて、総合農政対応の確固たる基礎が約束された訳であります。

又一般農耕土木災害対策を始め



蓬田村公民館報
 【蓬 門】 第76号
 発行所 青森県東津軽郡
 蓬田村公民館
 印刷所 第一印刷

<世帯と人口>

世帯数	1,321
人口	男 2,532
	女 2,659
計	5,191
(45.10.31現在)	

「蓬門」原稿募集
 「蓬門」の原稿を募集いたします。どんな事でもよいです。原稿を送つて下さい。
 原稿送付先
 蓬田村教育委員会

環境整備施設の充実に就いても着々と進められ、玉松台を民心飯一の場として観光施設を内容的に充実し、児童館・公民館を新築し、併て駐車場の整備、又総合グランド予定地の敷地を取得す。

尚瀬返地、蓬田両駅通路の木装工事、スクールバスの更新、学校給食の米飯切替、野菜貯蔵庫の新設、村内土地改良区統合、敬老年金制度の新設、殊に又村内各種行事を行なうについても夫々真に民主的に住民を主体として運営せられ、正に平和の表徴なりと喜ばれたものばかりであつて、誠に幸な村造りの年であつた事と存じます。之れは要するに村議会を始め村民皆様方の御認識と御協力の賜と深く敬意を表する次第であります。

尚御約束の如く、村の総てをあげざる者として其のもつとも正すべき村財政は明るく健全に運営せられて年度決算も一般特別会計共に大きく黒字をもつて御報告が出来ましたし、今後に於ても決して超過課税や投資予算をおさえる如き心配は御座いませんで、宜しく御安心下さる様にお願ひ致します。

以上の如く村政の大綱からは本当に安泰でありましたが、さて村民毎戸に、そして一人一人の身上に思いを致すならば、まだまだ行政の浸透性に於て幸であつたでしょうか。兎に角にも清水元老様を始め大切な方々が沢山お亡くなりになられた悲しみや、殊に御正月の慶びの中にも病床に伏せる方々は家計上の御心配等大変おこまりの方々はないでしょうか、万端の事柄に及べば身の周りきれぬままに不足の点多かつた事と思う時、深く御同情を申し上げますと共に何にかと御気軽に御遠慮なく御相談を承まわるよう切望致します。

斯様な観点に立ちて明けてゆく昭和四十六年は、村民の一人一人が健康で愉快に働き、明るく豊かに希望に満ちた生活を求めて、より経済の成長と教育文化を高めて、融合和楽の真に住みよい村造りに全精魂を傾注改す決意で御座います。

何卒村民各位の御理解ある御協力を御願ひする次第であります。尤も構想の細部は、新年度の予算編成の方針によつて明確に致しまして、紙面の都合上割愛をさせて頂きますから御了承賜り、ここに新年を心から御祝し、村民皆様の御健康と弥栄の御幸福を御祈り申上げて年頭の辞と致します。

* * *
 * * *

新年の祝詞

蓬田村議会議長

坂本孫九郎



輝かしい昭和四十六年元旦をむかえるに当り、謹んで年頭の祝詞を申し上げます。顧りみますと昨四十五年は国内外の情勢はもとより、村内にあつても多事、多難な年であつたと思ひます。

私は村民各位の御支援と、御協力により議長任重きを大過なく果してここに新春を迎えることが出来ましたことに對し深く感謝すると共に厚く御礼申し上げます。

私は年頭に當り住みよい社会、住みよい豊かな郷土建設のため、議会活動を通じ努力して行く所存であります。地方自治の発展は、即ち、住民福祉の増進であると考え

ております。

近年技術の進歩と産業の発達進歩により生活構造の急速なる変化にともない、私達の生活の總ての向上は急速に上昇を続けております。技術の進歩と産業構造の高度により労働時間はきわめて短縮されてきました。又それにとまないう労働生産方法の改善化、生活時間の構造が大きく変化して来ました

それが生活意識の変化となり、世帯構造の変化となり、モーターリゼーションの進歩により、転種の多様化、それにとまないう所得水準の上昇となり、特に農村は近年ますますすべての水準において都市との

差が大きく開いてまいりましたが急速に上昇を示しています。

耐久消費製品の購入、特に電化製品の普及はめざましく、家計消費の構造は自由な余暇時間の増大又進学年の上昇、又機動性の拡大等が私達が考えていた以上に急速に発達し又普及して来ました。家計は飲食業の割合エンゲル係数が三〇%を下廻る状態になつて来ました。住居費、教養娯楽費の増大でありました。農村から都市への距離は極めて近くなつて来ました。

地方自治体は現在では勿論、将来のビジョンに向つて時代の進歩に遅れないよう対策を樹立して実施して行かなければならないと思ひます。

我が蓬田村に於ては仮場新庁舎建設以来行政サービスセンターとして、諸般の行政内容が充実し、一層の進歩、向上がみられます。特に産業基盤整備事業、土地改良事業が段階的に実施されており、

という特殊事情のもとに打ちだされた学制制度にしても、いつまでも唯一であつてよいとはいへ得ないものではないでしょうか。

社会的機能の発展の一環としてとらえなければならぬ問題は先づ教育でなければならぬと思考されます。それは時代の進展の原動力とならなければならぬから

です。そのため現在新たな学制の改革が検討されています。改悪でなく改善は当然なければなりません。わが村も基本的構想のもとに

学力の向上にとめるとともに地域社会の健全な環境造りにつとめなければなりません。その施策として次の事柄を行なう必要があると思ひます。

大型機械の導入、大規模経営農家が出現して近代化農業に変貌しつつありまして。玉松台附近は駐車場が整備され、公民館、児童館が建設され社会教育の振興推進の場として、又健全なる児童の育成保護に大いに利用させて成果をあげるものと期待されております。

教育行政についてはスクールパスの購入、総合グラウンド敷地の購入、給食センター野菜貯蔵庫の建設が行なわれ、学力水準の向上にその効果が約束されております。

地方自治は時代と共に生きており常に流動しております。広域市町村圏整備計画事業が推進されて来ており、都市と農村の均衡のとれた流通経済の発展と所得の向上を図るため自治体は長期にわたり安定した財政運営が出来よう国県が財政処置を考慮すべきであり補助金、負担金の増額交付を強く要請している次第であります。

地場産業の基礎確立、農機業水

一、教育活動の充実
一、体力づくりの強化
一、教育環境の造成

(各内容については後日の機会に述べます)

以上大きく三つの事項を掲げましたが、教育効果は速急に見えるものでもなく、又求めるものでもありません。積み重ねによつて着々とその実績を上げるのが教育であるならば、その課程を大切に育てなければなりません。学校教育は勿論であります。学校教育において、村民みんな育て上げようではあります。年頭にあたり村民みなさまのご多幸を祈り、いささか所感の一端を述べご挨拶いたします。

新しい年を迎えて

教育長 田中 一 雄



村民のみなさん、あけましておめでとございます。みんなが健康で楽しく暮せる年でありますように心から念じてやみません。

新年は今一度新しく出発する機会を人々に与えてくれます。希望に満ちた心ゆたかなお正月の第一歩を踏みだしましょう。

教育委員会制度が発足以来、一心の教育の基礎づくりの段階は終

つたというものの、まだまだ個人の尊重、教育の機会均等といった大きな目標が達し得ないでいるのではないのでしょうか。

学校教育にしても、又家庭教育に移りとも社会教育にしても、世代ならぬものでもしよ。伝統ある日本の教育は対外的に誇れるものはあるにしても、終戦後の占領下

村民の皆様

新年を迎え心からお慶び申し上げます

昭和四十六年元旦

- 蓬 田 村 議 会
- 蓬田村農業協同組合
- 蓬田村漁業協同組合
- 蓬田村農業共済組合
- 蓬田村教育委員会
- 蓬田村農業委員会
- 蓬田村民生委員会
- 蓬田村国保運営委員会
- 蓬田村青年団体連絡協議会
- 蓬田村連合婦人会
- 蓬田村公民館

学校統合問題

教育の機会均等をめざして

めざして

別表蓬田村小中学校児童・生徒推計表は昭和五〇年度までの推計であるが、現在の我村の状況ではこの推計より減少することがあつても、増加することはあり得ない、随つて実際の推移はこの推計表より下廻る数値になるものと想定される。

この推計表で明示されているように、当村の児童・生徒数にも全国的な農山漁村の過疎現象が生じつつあり、昭和四十九年度における高根小学校の児童数はわずかに二三名に減少し、三ヶ学年復式の二学級編制とならざるを得ないのである。このような学級編制になつた場合は当然に学力の低下と云う問題も懸念されるので、所謂教育基本法第三条に掲げられる「教育の機会均等」の確保の意味からも、おそくとも昭和四十八年度までには村内小学校三校を統合すべきである。

故に四十八年度に三校統合を實施した場合の児童数は四七一名、一三学級（外に特進学級一学級）となりかろうじて適正規模校の中の最小規模校となる。なおこの三校統合の爲めに必要な条件は唯一つ村民各位の學校教育に対する基本的理解度と熱意あふれる協力のみである。それはこの三校統合実施の爲めに新校舎の建設は必要とせず、現蓬田小学校々舎を現在の

分使用出来るからである。ただこの際、児童の通学の便を計る爲め、盛で充スクールバスを準備する必要がある。しかしこの程度の軽微なる財政負担において、次代の吾が村のない手である、児童・生徒等の教育水準の向上が期待出来得るならば、一刻も速かに三校統合実現に踏切るべき、現在が最良の時期であると信ずるものである。
(教育次長 千葉琢勇)

昭和45.12月調 蓬田村小中学校児童生徒推計表 蓬田村教育委員会

学校別	年度別	年度別													
		45	46	47	48	49	50								
蓬田小	学年別児童数	54	54	48	49	54	54	41	49	46	37	41	40	46	37
	学級数	50	54	76	48	50	54	48	50	54	54	48	49	54	54
	児童総数	11	10	9	9	9	9	8	8	8	7	7	7	7	7
広瀬小	学年別児童数	20	30	37	31	20	30	25	31	20	26	25	24	29	26
	学級数	36	25	33	30	36	25	30	30	30	31	20	30	25	31
	児童総数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
高根小	学年別児童数	3	7	6	1	3	7	5	1	3	4	5	1	3	4
	学級数	9	10	9	6	9	10	7	6	9	3	7	6	1	3
	児童総数	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2
小学校計	学級数	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7
	児童総数	554	517	499	471	465	441	411	399	389	377	366	355	344	333
	児童総数	100	134	118	100	89	118	95	89	84	95	84	95	91	84
蓬田中	学年別児童数	120	9	9	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7
	学級数	9	9	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7
	児童総数	354	352	307	302	268	270	270	268	268	268	268	268	268	268
小・中学校計	児童総数	908	869	806	773	733	711	688	673	655	642	630	618	606	594
	児童総数	77	91	84	81	77	67	71	81	78	67	71	67	78	67
	児童総数	95	89	118	84	95	97	91	84	81	77	91	71	81	77
小学校統合校	学年別児童数	15	14	14	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	学級数	554	517	499	471	465	441	411	399	389	377	366	355	344	333
	児童総数	554	517	499	471	465	441	411	399	389	377	366	355	344	333

国勢調査結果表

	40年国勢調査				45年国勢調査			
	世帯数	男	女	計	世帯数	男	女	計
中長阿蓬郷瀬広高瀬合	113	379	301	610	120	287	292	579
弥陀	109	292	277	569	104	259	253	512
	154	411	401	812	163	376	382	758
田沢地瀬根拓	133	370	370	740	138	342	348	690
	97	231	266	497	99	214	249	463
辺地開拓	139	334	349	683	139	354	351	705
	152	365	387	752	157	350	390	740
合	59	155	133	288	56	150	128	278
	13	22	24	46	13	23	24	47
計	969	2,489	2,508	4,997	989	2,355	2,417	4,772

十月一日行われた国勢調査がまとまりました。四十年調査に対する比較は次の表のとおりですが、世帯数の増加に対し人口が減少しております。

昭和四十五年度国勢調査

△世界名言コーナー▽

人生とは絶えず大なる幸福に到着せんとする魂の巡礼である

トルストイ

(解説)

この言葉は、人道主義的思想の一端を示すものである。勿論、人はそれぞれ、その個性に従つて、その求むる幸福は一樣ではないであらうが、その幸福を求めると云う点においては変りはない。中国の古い言葉にも、一年の計は元旦にありといふことがある。こうして、人々は、この一年の幸福を求めて、その巡礼に旅立つのである。しかし、それは、ただ、幸福を求めさえすれば、それでいいと云うのではない。それは、「正しく強く」と云うことでなければならぬ。

◎一月の体育協会の行事

一月十七日(日) 場所 蓬田小学校

◎村民球技大会

バレー(六人制) 卓球

農業者年金制度のお知らせ

蓬田村農業委員会

昨年、農業者年金設立のため全国的に署名運動が行なわれ、当村でも各農家の皆様方の御協力を得ました。

その誠意が稔りこの十月一日に法律施行になったところですが、実際に本業務を行なうためには今後の省令や業務実施要領などを待たなければならぬが、さきがけて農業者年金事業の内容をおおざつぱにお知らせします。

一、農業者年金には当然加入と任意加入があります。

1 当然加入被保険者とは、耕作又は養畜の事業を行なう国民年金の被保険者であつて、所有権又は使用収益権に基づいてその事業に供する農地などの面積が五十アール以上の者は、農業者年金の当然加入者となる。

しかし、この要件に該当する者であつても、年金の受給に必要な資格期間は法により通常二十年、特例で最低五年を満すことのできない者は被保険者となることとはできないことになっている。

そのため、昭和四十六年一月一日現在で五十五才以上の者は他の要件に備わつていても、この年金に加入できない。

2 任意加入被保険者とは、当然加入の資格がなくても、一

定の要件に該当するものは、基金に申し出て、被保険者となることのできる。

その一定の要件とは、

(1)耕作又は養畜の事業に供する農地などの面積が五十アール未満であつて三十アール以上の者

(2)農業生産法人の構成員で常時従事者であり、法人の経営面積を構成員の総数で頭割りした面積とその構成員が別に個人で経営している面積があれば、それに加えて五十アール以上ある者。

(3)当然加入の経営主の後継者(直系卑族、子や孫の一名)で引き続き三年以上農業に従事している者一名に限る。の第三者

二、農業者年金加入資格の喪失、加入脱退、

1 資格の喪失とは、

(1)農業者年金の被保険者が、国民年金の被保険者でなくなつた時

(2)経営移譲をした時、又農業をやめた時、

(3)農業生産法人の構成員で任意加入した者の場合は、構成員でなくなるかまた常時従事者でなくなつた時、

2 加入脱退とは、

途中で農業者年金から脱退は、任意加入資格要件の被保険者はいつでも任意脱退できるが、当然加入のほうは、次の要件に備わなければ脱退できない。

(1)経営面積が五十アール以下になつた時、

(2)被保険者が政令で定める病氣や障害の状態にある時、

三、給付の種類は、経営移譲年金、農業者老令年金、脱退一時金および死亡一時金の四種類である。

その内容としては、

1 経営移譲年金とは、被保険料を二十年以上納めた被保険者(通常では二十年被保険料を納める必要があるが、特例で加入者の年令に応じて、五年から十九年をもつて満期とすることになつている。)が六十才以前に経営移譲した時は六十才から、六十才から六十四才までに経営移譲した時は六十五才から給付が受けられる。

2 農業者老令年金とは、被保険料を二十年以上納めたが、六十五才までに経営移譲しなくても年令要件だけで、六十五才になつたら給付を受ける。

3 脱退一時金および死亡一時金とは、被保険料を三年以上納めた被保険者が脱退あるいは死亡した場合は納めた被保険料に一定の利息を加えたものが一時金として給付される。

四、被保険料は国民年金と合算し夫婦で月額二千元となる。

夫の農業者年金保険料 七百五十円
夫の国民年金定額分、 四百五十円
夫の国民年金所得比例分 三百五十円
妻の国民年金定額分 四百五十円

以上、農業者年金制度についておおざっぱに申し上げましたが、詳しくは、農協が農業委員会までおたずね下さい。

開田記念碑除幕式

中沢、長科地区共同施行(委員 長坂本文一)では、かねて準備中の記念碑を旧三口に建立、その除幕式は十二月十二日行われた。

そもそも昭和四十年頃は食糧事情は現在のような流通を欠き開田によるその需給を満たすほか他に道はなかつた。

両地区にまたがる一〇〇ヘクタールの原野に着月した有志は両部落民へ呼びかけ、一人の反対もなくその着工に踏切ることになった。然し補助地区として僅に五十ヘクタール採択となつた。残り約五〇ヘクタールは非補助地区として開田に同一歩調を合せることになつた。四十二年秋より着工し四十五年春に完成し、組合発足より五ヶ年の歳月と総工費一億三千八百万円を以て九十四ヘクタールに一望に広がる新田が生れた。

さく井八本による用水は極めて潤沢にして未来の契を約束することになつた。題字は準備起草委員会再三にわたる協議の結果天に和し、人に和し、人に和し、この精神あればこそ事業が完成したのだとの意見が統一し「和耕」と決定、さつそく青森県知事竹内俊吉氏に揮毫を依頼したものである。

碑文は沿革から経過を抜す五千字による主文を構成、更にそれを約一千二百字に縮めたもので正法院任職佐藤貞嶺師に添削監修を依頼したものである。表面碑文は弘前市相馬利忠氏、裏面は組合員坂本毅氏の書によるものである。

当日は仙台農政局、青森県、村各関係者が多数参列、除幕式は沢田神官の祭事で行われた。続いて保育所講堂で竣工式が挙行され盛況裡に幕を閉じた。